

マイボトルの利用を促す情報に関するアンケート調査

Questionnaire survey on the information to promote using personal own bottle

○沼田大輔*

Daisuke NUMATA

1. はじめに

外出先での水分補給においては、ペットボトル入り飲料水よりも、マイボトル入り水道水の方が大幅に環境負荷を下げられると言われている（三木ほか2010）。マイボトルの利用を促す方策の一つとして、マイボトルの利用方法に関する情報（例：マイボトルに給水できる場所・給水タイプ（例：公園などの水飲み場、冷水器、蛇口、ウォーターサーバー、ボトル給水機）・給水できる水の種類（例：浄水・常温水・冷水））の提供が考えられる。しかしながら、こうした情報の提供がマイボトルの利用を促すことができているか、マイボトル利用方法に関するどのような情報が求められているかについては必ずしも調べられていない。

一方、報告者の研究室では、福島県内におけるマイボトルへの給水を誰もが無料で行うことができる場所（給水スポット）についての情報を2022年4月からウェブサイト上のマップに蓄積している（<https://www.refill-japan.org/team/refill-fukushima/>）。給水スポットには、公園・駅・公共施設などにある「公共の水飲み場」（2024年5月時点で80箇所）と、マイボトルに無料で給水してくれる「協力店舗」（2024年5月時点で15箇所）があり、両者はウェブサイト上で識別できる。

本報告では、上記の取組をもとに、大学生および市民にアンケート調査を行い、マイボトルの利用を促す情報について考察した結果を示す。

2. 分析方法

福島大学の学生に、2022年10月24日から11月3日にかけて、福島県内（主に福島市）における給水スポットのマップを見ることで、ペットボトルの利用がどの程度変化するかなどについてアンケート調査を実施し、232名の回答を得た。なお、このうち、マイボトルを持っているが（ほぼ）使わない回答者は51%であった。

また、2023年10月20日から11月7日に、福島大学の学生、「ふくしま田園中枢都市圏」（福島市など9市町村）の住民などに、利用したい給水スポットの特徴についてアンケート調査を行い、442名の回答を得た（うち、福島大学生29%、住民等71%）。そして、マイボトル利用者か否かで、利用したい給水スポットの特徴の違いを検討した。なお、回答者のう

* 福島大学経済経営学類 Faculty of Economics and Business Administration, Fukushima University
〒960-1296 福島市金谷川1 E-mail: numata@econ.fukushima-u.ac.jp

ち、マイボトルを持っているが使用していない回答者は11%であり、回答した住民等は、環境意識が比較的高い可能性があることに注意が必要である。

3. 分析結果の例

2022年に行ったアンケートより、1節で示した給水スポットマップを見ることでペットボトル入り飲料の購入を減らす人が2割程度見られた。また、広い範囲を示したマップ（学籍番号が奇数の学生が回答、図1）の方が、狭い範囲を示したマップ（学籍番号が偶数の学生が回答、図2）よりも、給水スポットが多いと思う回答が約2割多く見られた。しかしながら、マップで示す範囲が広くても狭くても、ペットボトル入り飲料の購入意向に明確な違いは見られず、マップにある給水スポットに行こうと思う割合にほぼ変化は見られなかった。

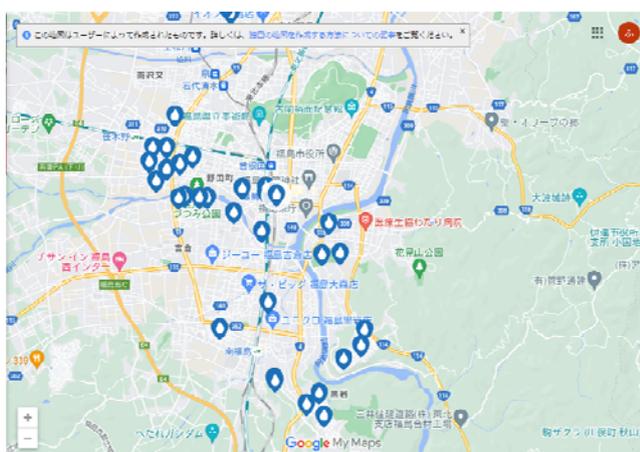


図 1. 広い範囲を示したマップ



図 2. 狭い範囲を示したマップ
注) ● …公共の水飲み場

2023年に行ったアンケートより、マイボトル利用者（外出時に5回に1回以上マイボトルを使用している回答者と定義。回答者全体の67%）の利用したい給水タイプは、ウォーターサーバーが最も多く（マイボトル利用者の85%）、次にボトル給水機、協力店舗、冷水機と続いた。一方、マイボトル利用者以外の利用したい給水タイプも、ウォーターサーバーが最も多く（マイボトル利用者以外の88%）、次に協力店舗、ボトル給水機、冷水機と続いた。また、マイボトル利用者の利用したい給水場所は、公共施設（図書館や市役所など）が最も多く（マイボトル利用者の85%）、次に駅、飲食店、公園であった。一方、マイボトル利用者以外の利用したい給水場所も、公共施設が最も多く（マイボトル利用者以外の75%）、次に駅、飲食店、公園であった。

参考文献：

- ・ 三木暁子・中谷隼・平尾雅彦(2010)「消費者のためのライフサイクル評価による飲料水利用のシナリオ分析」『環境科学会誌』第23巻 第6号, pp.447-458